



令和元年9月20日
保健所 疾病対策課

麻しん（はしか）患者の集団発生に伴う 注意喚起について

海外で麻しんに感染した患者から、市内及び埼玉県南部保健所管内で二次感染したとみられる事例が発生しました。

初発患者は、ベトナムへの渡航歴があり、帰国後発症しました。このため、市保健所では患者への調査を行い、市内医療機関での接触者に対する健康観察を、また、患者の勤務先である蕨市内の語学学校（以下「学校」という。）を管轄する県南部保健所において、学校の接触者に対する健康観察を実施し、感染拡大の防止に努めておりました。しかしながら、学校の接触者の中から初発患者より感染したと思われる患者が2名発生しており、現在、市保健所及び県南部保健所において、患者の接触者に対して、緊急予防接種及び健康観察を実施し、更なる感染症の拡大の防止に努めております。

麻しんは感染力が強く、注意が必要であるため、市民の皆様に対して広く情報提供するものです。

【麻しんを疑う症状が現れた方へ】

麻しんを疑う症状が現れた方は、二次感染を防ぐため、いきなり医療機関を受診するのではなく、必ず、医療機関を受診する前に、川口市保健所に電話連絡の上その指示に従い、マスクを着用して医療機関を受診してください。また、受診の際は、周囲の方への感染を拡げないように、公共交通機関の利用を避けてください。

【海外に旅行を予定されている方へ】

○旅行前の準備

- ・麻しんにかかったことや麻しん含有ワクチン（MRワクチン又は麻しんワクチン）の予防接種歴を母子手帳などで確認しましょう。
- ・予防接種歴や麻しんにかかったかどうか不明な方は、抗体検査の実施、ワクチン接種の可否などについて、かかりつけ医にご相談ください。

○麻しん（はしか）が流行している地域へ旅行された方は、帰国後2週間程度は健康状態（特に、高熱や全身の発しん、咳、目の充血などの症状）に注意しましょう。

【 麻しん（はしか）とは 】

原 因：麻しんウイルス

潜伏期間：約10～12日間（最大21日間）

症 状：感染すると、約10日後に38℃程度の発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。

治 療：特異的な治療方法はなし。対症療法。

感染経路：空気感染、飛沫感染、接触感染で、感染力が非常に強いと言われています。

予防方法：ワクチン接種

【 患者の概要 】

- (1) 初発患者（確定例） 川口市内在住 20代男性 ※既に回復
- 経過 8月31日 発熱出現
9月3日 発疹出現
9月4日 市内医療機関①と市内医療機関②を受診
9月5日 市内医療機関③を受診し、市保健所に麻しん発生届（臨床診断）
9月6日 埼玉県衛生研究所における遺伝子検査により麻しん陽性が判明
※ 市保健所では①、②、③での接触者や、受診時に利用したタクシー運転手について、希望による緊急予防接種実施の調整と健康観察を実施しています。
- (2) 患者A（確定例） 戸田市在住、20代、女性 ※現在自宅療養中
- 経過 9月11日 発熱出現
9月15日 発疹出現
市内医療機関を受診し、市保健所に麻しん発生届（臨床診断）
※ 市内医療機関での接触者に対しては、希望者へ緊急予防接種の調整と健康観察を実施しています。
9月16日 埼玉県衛生研究所における遺伝子検査の結果、麻しん陽性が判明
※ 学校等の接触者については、南部保健所対応中。
- (3) 患者B（確定例） 川口市内在住 20代女性 ※現在自宅療養中
- 経過 9月13日 発熱出現
9月16日 発疹出現
9月17日 市内医療機関を受診し、市保健所に麻しん発生届（臨床診断）
※ 医療機関受診時には事前に市保健所による調整を行ったため、感染の心配のある接触者はありません。
9月18日 埼玉県衛生研究所における遺伝子検査により麻しん陽性が判明
※ 学校等の接触者については、南部保健所対応中。
なお、不特定多数の方との接触や、公共交通機関の利用はありません。

【報道機関の方へ】

本情報提供は、感染症予防啓発のために行うものですので、報道機関各位におかれましては、患者等の個人に係る情報について、プライバシー保護等の観点から、提供資料の範囲内での報道に、格段のご配慮をお願いいたします。

問い合わせ
保健所 疾病対策課
電話（代表）048-266-5557